

認定特定非営利活動法人

「もうひとつの美術館」活動報告より

もうひとつの美術館は、障がいの有無や専門家であるなしに関わらない芸術活動の支援を通して、創造的で多様な価値観を持ち、支えあう社会の実現を目指すことにより、福祉、社会教育、まちづくり、地域振興、観光・芸術の振興、環境保全などに寄与することを目的に活動されています。

6月に開催された「とちぎコープ第37回通常総代会」においては、特別報告として、代表理事兼館長の梶原紀子様より活動内容をご報告いただきました。誌面でもご紹介します。

本日は、このような機会をいただき、ありがとうございます。「もうひとつの美術館」の梶原紀子と申します。私には2人息子がおり、次男が重度の自閉症です。いろいろなことから、東京から生活環境を変えたくて、長男の小学校入学に合わせて1998年に東京の中野から那珂川町（当時は馬頭町）に移住しました。世の中にはいろいろな美術館がありますが、その中で「もうひとつの美術館」がどういうところか、まずお話しさせていただきます。

栃木県那珂川町にある「もうひとつの美術館」は、明治・大正時代に建てられた旧小口小学校の校舎を再利用し、2001年に開設しました。



この美術館をつくったきっかけについて、よく知らない方からは「美術館をつくるために栃木に来られたのですか？」と聞かれるのですが、そうではありません。先ほども言いましたとおり、子育てがしやすい環境を求めて栃木に移り住んで、1年ほど経ったころのことです。1999年の春に、東京都美術館で「このアートで元気になる エイブル・アート99」という展覧会がありました。また同じ年に、ドキュメンタリー映画「まひるのほし」も上映されていました。

今から25年前の当時は、まだインターネットも普及しておらず、障がいのある方の作品が美術館で紹介される機会なんて、ほとんどなかった時代です。たまたま、終了間近の日に夫が観に行きました。私は子どもがまだ小さかったので、栃木からはとても行けなかったのですが、観に行った夫は度肝を抜かれて帰ってききました。もともと私と夫はアート系の人間で、美術展にはよく行っていたのですが、それまで紹介されたことのない、障がい

のある方の表現が、目の前にいっぱい並んでいたと言います。

私は夫が買って帰ってきたカタログをただけでもショックが大きくて、その中で映画「まひるのほし」が紹介されていました。その映画が上映されている場所を探して、当時は福島市まで観に行ったことを覚えています。「まひるのほし」は、知的障がいのある人たちの学校卒業後の日常生活と創作活動を追ったドキュメンタリー映画でした。

彼らの凄いところは、ありふれた道具を使いながら、自由な発想と独特な表現で、本当に強いエネルギーを発散しているんですね。観た人にインパクトを与えるものを持っています。でも、これほど生きる根源的なパワーを持っているのに、なぜ世の中に知られていないのだらうと思ったんです。今でこそ脚光を浴びていますが、当時は、障がいのある人たちは社会的な弱者であり、世の中に役に立たない人たちと思われていた、そういう時代でした。それまでは観る機会が少なかっただけで、



正面玄関の破風（はふ）には、旧小口小学校の「小口小」という文字の棟飾りが今も残っています。

作品として独立して観たときには、これだけ説得力があるんだと思いました。私は、映画に出てきた作品を映画の上映と一緒に展示できないかなと考えました。

その時期、町では過疎・少子化から統廃合が進み、古い校舎が次々と廃校になるという問題がありました。壊してしまふのは簡単ですが、現在使っている旧小口小学校などは、北関東では最も古いと言われている建物です。現存する建物で活用されているものとしては、かなり古い部類に入ります。

向かって右の建物は、明治36（1903）年に建てられた築120年を超える建物です。向かって左は、大正14（1925）年に建てられた築100年を超える建物です。



この障がいのある人の表現の良さ、凄さを知って、それから、学校としての機能は終わったとしても、まだまだ使える趣のある場所を活かせないかと思い、そこから美術館をつくろうと、2000年4月に有志で「もうひとつの美術館設立準備会」を立ち上げました。

旧小口小学校の1年前に矢又小学校の
廃校が決まりましたので、2000年
夏に、映画「まひるのほし」の上映とパ
ネルディスカッション、また、映画に出
てきた作品や、足利市で古くから創作活
動をしているルンビニー園から作品をお
借りしての展覧会を開催しました。2週
間の展覧会は、地元の馬頭高校の美術部
やボランティア部など、いろいろな人に
協力してもらってできたことでした。

このイベントで町民や県民の皆さんに
どんな美術館を作りたいのか、少しは美
術館の構想をお伝えできました。その後、
町にお願ひしたところ、旧小口小学校の
校舎を貸していただけることになって、
2001年8月から美術館活動を始め
たんです。

美術館の活動は多岐にわたるのです
が、ぜひ、今日のためにパンフレットを
作りましたのでご覧ください。（当日は
スライドにてこれまでの様々な展示を紹
介いただきます）

今年で開館25周年を迎えました。美術館というのは、本当に一人ではできません。これまでいろいろな方に支えていただきましたが、私たちはまだまだ発展途上です。皆さま、ぜひ当館に来ていただいて、どんな場所か知っていただき、もし良いなと思ってくだされば、ご支援をいただけたら幸いです。

もうひとつの美術館 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2

休館日：月曜日（祝祭日の場合は翌日）・展示替え期間・
冬季休館（12月下旬～2月下旬）

【現在の展示】「いえとまち棲むということ」
2026年7月17日（金） - 11月23日（祝月）

お問い合わせ：tel & fax 0287-92-8088
E-mail mob@nactv.ne.jp

ホームページ
<https://www.mobmuseum.org/>

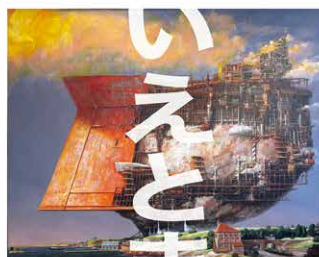


Instagram
https://www.
instagram.com/
mob_museum/



- 主に障がいのある人たちの作品を紹介する、年2～3回の自主企画展覧会の開催
- フォーラムやワークショップなどの開催（月1回程度「もうひとつのくらぶ」など）
- 障がいのある人たちの創作活動の支援（とちぎアートサポートセンター TAMの設置）
- 収蔵作品の貸し出しと「出前美術館」の開催
- ミュージアムショップ（全国の福祉事業所のグッズ等の販売）＆カフェ「M+Cafe」の運営
- 会報「MB通信」の発行

とちぎコープは、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献することをめざし、毎年、県内で活動するNPO法人に助成金をお贈りしています。2026年度は44団体に総額600万円の助成を行いました。今回ご紹介した「もうひとつの美術館」も助成団体の一つです。



上段から
秋田昌彦「蘭守居」
黒島弘人「藍の巻」
山田重洋「ハンパ」
Nicks「藍竹竹歌」
山田シヲ「奈良鹿」
香田定之「しょうげん」(撮影:大河内夫)
提供:ノー・グレイス・アート・ミュージアム(NOMA)

お城、建築途中の家、
風景の中の家々、
見慣れた風景、
夢でみた情景、
空想のなかの都市計画図、
城塞のような架空の街、
小さくて大きい建築・・・
いへはひとの暮らし箱、
まちは箱の集まる場所のはずが・・・
作家達は身近な家や街を各々の目線で捉えて
その表現は実にさまざまです。



諸方敏明「鳥の小学校」

後藤拓也「い・え」

2026 **7/17**(金) → **11/23**(祝月)

開館時間 | 10:00～17:00 (入場は16:30まで)
夜美術館開館時は10:00～20:00 (入場は19:30まで)

展示場所 | もうひとつの美術館

〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口 1181-2 0287-92-8088

〔出展作家〕

大家美咲|緒方敏明|香川定之|株田昌彦|川島直人
神山亞津美|後藤拓也|鳥山シュウ|hideki

[illegible] もうひとつの美術館 <https://www.mobmuseum.org>